

## 7月の銅マーケットレポート及び8月の見通し (3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



## 【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比-3.3%の7万434 t、2か月ぶり減少。内需は5万8,707 t -2.3%、3か月振りマイナス。

輸出は1万1,727 t -7.7%、2か月ぶりマイナス。銅条は2万3,233 t -2.4%、3か月ぶりマイナス。黄銅棒は1万5,778 t -8.5%、2か月ぶりマイナス。

## 【電線】

前年比+3.5%の5万9,700 t。

うち国内+2.5%、輸出が+43%、通信-9.1%、電力+3.9%、電気機械+1.3%、自動車+3.6%、建設電販+5.8%、その他内需+4.8%。

## 【輸出】

電気銅輸出が+30.7%の5万3,627 t。銅スクラップは-15.8%の2万6,963 t。

## 【輸入】

電気銅が-33.6%の995 t。スクラップは+17.5%の1万2,106 t。

## 【見通し】

・自動車は生産が+4.6%。国内販売台数が前年比+1.2%。生産が3か月連続プラス、販売が3か月振りプラス。販売増が継続するかどうかが今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で-7.1%と3か月ぶり大幅マイナス。大幅減が続くのか今後の動向に注目。

・伸銅品は2か月振り減少、前年比-3.3%。需要の多い銅条3か月連続マイナス、黄銅棒は3か月ぶりマイナス、輸出2か月ぶりマイナス。自動車生産が3か月連続プラスと改善、銅品生産も改善するか今後の動向に注視。

・電線は前年比+3.5%の5万9,700 t、輸出が+43%。需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+3.6%、+5.8%。

建設電販が3か月連続プラスに！

・銅輸出は地金は円安から増加、スクラップは内需用途から減少。

・銅輸入は大幅円安から地金は減少、内需用途からスクラップは増加。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は前全月半ばごろの建値84万から73万まで下落し塩漬け状態。需要面に関しては足元の生産状況が比較的良好。品費の良いスクラップは安値で拾えば買い気ありだが品費の低いスクラップに関しては使用に手間がかかるため購買意欲は薄く飽和状態になるのではないかと？

## 【価格・為替予想】

今月は米中貿易戦争と鉱山ストの動向に左右される。米貿易戦争に関しては、中国商務部が「米国の貿易に関する脅し、いじめは理解できず報復措置を取らざるを得ない」との発表！トランプ米大統領も7月に公表していた2,000億ドル分の中国製品を対象とした対中制裁の関税率を当初の10%から25%に引き上げるよう米通商代表部(USTR)に指示するなど貿易戦争の長期化の様相。鉱山ストに関しては、エスコンディダ鉱山の労組が投票でスト突入を承認したことから長期化の様相。これらを踏まえた8月の銅価格は、米貿易戦争で両国間で歩み寄りが見られ、エスコンディダ鉱山で昨年同様労使交渉が決裂した場合6,500ドル付近。

両条件が揃わなかった場合現状から6,000ドル付近まで下落するとの予想。

為替は、上記材料からドル円値は110円~112円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては700-770円程度と予測している。

【7月の銅マーケットレポート及び8月の見通し】終了！